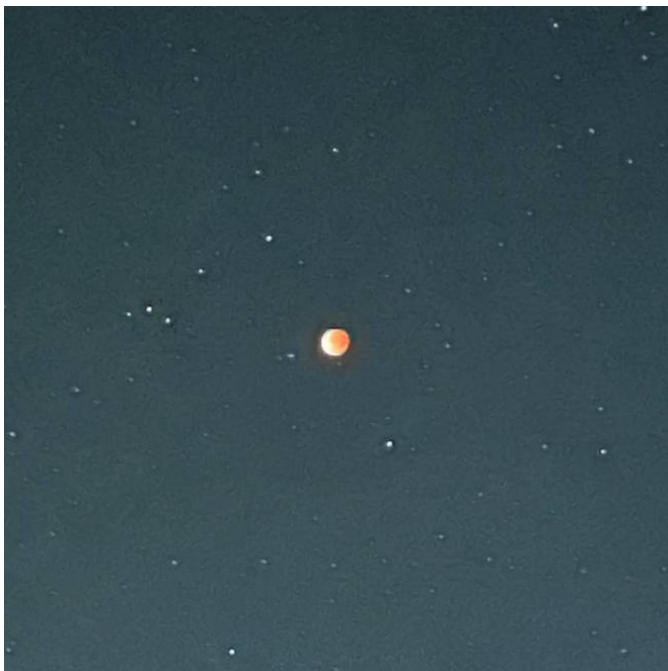


9 月 8 日の未明に起きた皆既月食は、深夜～早朝に起きた天文現象だったので、なかなか厳しい観望条件でした。それでも、日々の理科の読者の方、卒業生、友人などから、たくさんの写真が届きました。

私も「アレクサ、午前 1 時に起こして」と命じたあと仮眠、実際に相当の覚悟を持って午前 1 時に起きました。その後自転車で教育の森公園に向かいました。公園前のローソンに寄って、必要なもの(たとえば月食どら焼き)を買ってから向かいました。

教育の森公園では、何組かの人物がいましたが、月食と関係のない若者のグループが多く、月食を観望している人はあまりいませんでした。私も 100 枚ぐらいは撮影したのですが、それは後回しにして、まずは今回、皆様から投稿された写真を紹介しましょう。

尚、ほとんどの写真は、スマホのカメラで撮影されたものです。写真の題名は、私が勝手につけました！



「深宇宙に浮かぶ皆既月食」

九州在住の卒業生の写真です。スマホで撮ったそうです。恒星がたくさん写っていてすばらしい。ちょっと分析したところ、だいたい 6 等星まで写っていて、最近のスマホカメラの性能の良さがよくわかります。撮影者は「ああ、今、地球の影に月が入っているんだなあ」と思ったそうです。実に正確な思考です。



「草かげに浮かぶ真っ赤な月」

これも卒業生の作品です。新宿区市谷で撮影したそうです。月食に限らず月の写真撮影というと、月そのものを拡大して狙いがちですが、この写真はちがいます。手前に植物のシルエットがあることで、少なくとも「地球で撮影された月食」とわかります。こういう月食の写真は貴重なものです。



「スマイル月食」

これも天体に造詣の深い卒業生の撮影です。東京都大田区での撮影です。皆既月食中の月は、暗い部分が顔、明るい弧が口で、笑った顔に見えることがあります。その様子を写真に撮るのは難しいのですが、この写真ではよく写っています。やや露出オーバーですが、それがまた良いのです。そのまま掲載しています。



「皆既月食は実はこんなふうに見えた」

横浜市の理科の先生の作品です。ご本人は「スマホなので何が何やら・・・」と低評価でしたが、私はそうは思いません。「見た目に近い写真」だからです。実際に皆既中の月を肉眼で見た人は、このように見えたと言っているはず。オーロラも天の川も、大抵の写真は実際の見え方とは程遠いものが多いです。この写真は皆既月食の記録として貴重なものです。



「自宅前で家族と見た月食」

これも自然好きの新宿の卒業生の作品です。「とてもきれいでした。家族と一緒に家の前で見られました！」と言っていました。月をアップにしがちな月食写真で、あえて広角で撮影することで、実に情景的で心のこもった写真になっています。



「お椀のような月」

川崎市の友人の写真です。皆既月食は、当然皆既中の写真が多いのは当然でしょう。しかし、皆既月食の前後には「必ず」部分月食の「全シーン」があります。この月も、一見「半月前の六日月」のように見えますが、六日月はこの月の地形や向きにはなりません。これも「月食ならでは」の月相（月の形状）と言えます。これも見た目に近い、優秀な写真です。



「赤銅色の月」

上の写真と同じ方の撮影です。皆既月食中の満月は、地球の影に入っているため、本来真っ黒になるはず。しかし、地球大気を屈折した太陽光がわずかに月面にあたりぼんやりと赤く見えるのです。俗に「赤銅色の月」と表現されますが、まさにその色です。